

料金別納
郵便

江戸川区議会議員 田中 寿一

2025.03



Juichi report

Dreams

江戸川区議会では令和7年第1回定例会(2/14~3/25)の開催に伴い「予算特別委員会」を設置、私は委員として、新年度予算案の審査に臨みました。

今号では、その「質問・提案」の一部について、去年の代表質問などを踏まえつつお知らせします。

区政運営

「就職氷河期世代」が抱える現状と今後を踏まえながら 持続可能で質の高い行政サービスを。

一般会計3,346億円余、特別会計も合わせた総額で4,637億円余となった新年度予算。一方、本区の人口推計では2040年~2050年にかけて高齢人口がピークを迎えると示されており将来にわたり安定的に行政サービスを提供するには、中長期の視点に立った取組みも不可欠です。上記のピークは就職氷河期世代と重なっており、**雇用環境が厳しい時期に就職活動を行い、現在も様々な課題に直面しているこの世代の現状と今後を十分に踏まえること、その上で、将来に向かって質の高い行政サービスを安定的に提供できる江戸川区を築いてゆくよう求めました。**

教育

個に応じた学びの充実、誰ひとり取り残さない学習支援を。

江戸川区では「放課後補習教室」「EDO塾」「EDO学舎」など個々の学力に応じた独自の取組みを重ねてきていますが、**学力に課題を抱えている子どもたちに対する一層の支援**がとりわけ欠かせません。さらにきめ細やかな学習支援の充実について求めました。



介護難民を発生させない。人材の確保と定着に向けた取組みを。

高齢化が進む今日、**介護サービス利用の入口となるケアマネジャーの不足により、その提供に遅れが生じることがあってはなりません。**ケアマネジャー人材の確保と定着に向けた取組みを進めると同時に、質の高いケアマネジメントに向けた業務効率化の推進を求めました。

また、**熟年者や障害をお持ちの方などの住宅の確保と居住の安定**に向けて居住支援協議会による取組みの推進、居住支援法人の活用と周知を図るよう求めました。



三大産地として知られた「金魚」の文化と技術の継承を。

金魚の三大産地として知られた江戸川区。新年度予算案に組み込まれている金魚の養殖技術の継承と障害者等の働く機会確保に向けた取組みに期待するところです。また、**実際に養殖の池があり、その光景とともに金魚文化が根付いているのが「二之江の地域」**です。

地域を象徴するイベントである古川まつり等を通じて、子どもたちにとっても金魚との思い出が豊富な**二之江から金魚の泳ぐ街としての取組み推進**を求めました。



賑わいと交流が生まれる、駅前にふさわしいまちづくりを。

昨年の私の代表質問に対する答弁で示された、船堀の再開発ビルに予定される**新しいスタイルの図書館を含む文化・交流の拠点となる複合施設**について、これまでの公共施設の枠にとらわれることなく、オープンハウス等により**この間積み重ねられてきた多くの人々の街への思いが運営面にまで十分反映された「基本構想」**を策定するよう求めました。

また、代表質問の際には**歩行者用デッキ**について、新庁舎・再開発ビル・タワーホールのみならず**駅まで含めた一体的な整備**を求めたところですが、駅への直結が実現すれば、これまで以上に区の玄関口・顔としての役割が**タワーホール**には期待されることから、開設から25年経過していることを踏まえた**改修時におけるいっそうの魅力と機能の強化**について求めました。

新庁舎移転と駅前のまちづくりを進めるにあたっては、区内各所から行きやすい・集まりやすい街であることも重要です。**江戸川区を俯瞰的にとらえた公共交通の見直し**について求めました。

あわせて、**船堀駅前が抱える交通上の課題**（バス乗り場が分散していて分かりにくい／バス乗り場が東側に偏在しておりバスが迂回を強いられている／それに伴うバス・自動車・歩行者などの動線の錯綜／改札が船堀街道東側の1箇所しかない）を解消するため

「交通広場」の整備や駅西側における「新たな改札」の設置を関係者とともに進めるよう改めて求めました。

